医療最前線

活性化自己リンパ球療法による がん治療について

浅海良昭医師

先々月、先月と活性化自己リンパ球療法によるがん治療について、原理や適応を中心に解説させていただきました。今月で本シリーズは最後になります。最後に本療法の具体的な治療方法や手続きについて解説したいと思います。

■方法

基本的に採血と点滴治療のみなので、通院治療が可能です。

①まず患者さんから約50ccほど採血します。

②比重遠心法で血液中のリンパ球を分離します。

③リンパ球を抗CD3抗体、IL-2で刺激することによってその活性を強化し、さらに増殖培養することで約2週間で1000倍以上に増やします。

④培養液を洗浄除去し、リンパ球を回収し、無菌テストなどをクリアすれば点滴バッグに詰めて製剤化します。

⑤これを約1時間かけて患者さんに点滴注射します。

■スケジュール

患者さんの状態で治療スケジュールは個々に変わりますが、基本的には最初の12回を1クールとし、以下のように行います。

①進行がんの場合（QOL改善が目的）
毎週1回で12回継続（約3カ月）。

②再発防止が目的の場合
毎週1回を4回、2週間に1回を4回、月に1回を4回で計12回（約7カ月）。

可能な場合は以降月に1回でできるだけ長期継続。

■効果判定

1クール終了後、CT検査、腫瘍マーカー、自覚症状の改善程度などで治療効果を判定します。

■手続き

実際、この活性化自己リンパ球療法を希望される患者さんが、どのような手順を踏めばいいのか説明します。リンパ球の活性化培養工程は東京都文京区白山にある白山通りクリニックにて、株式会社リンフォテック（関根博士が設立）の技術的・人的支援のもと行っています。近郊の患者さんは、直接白山通りクリニックに受診予約をし、主治医の先生からの紹介状を持参の上受診していただきます。遠方の患者さんは、提携医療機関（当院も提携しています）にご相談いただき、白山通りクリニックとの契約の後、提携病院にて治療を受けることができます。

■問題点

本治療は現在のところ保険適応を受けた治療法ではなく、自由診療というかたちになります。1回の治療に約20万円かかります。1クール行うと約240万円かかるという計算になり、患者さんの経済的負担が大きくなります。

■おわりに

がん治療に関して、手術、化学療法（抗がん剤治療）、放射線療法は欠かすことのできない治療法です。日々進歩もしています。しかしながら、これらの治療法だけではがんを克服できない場合も少なからずあるのが現実です。第4、第5の治療法の確立が望まれます。第4の治療法として免疫療法は期待されていますが、科学的根拠を持ち、効果の証明されたものは少ないのが現状です。そんな中で活性化自己リンパ球療法は最先端の治療法の1つと言っても過言ではないかと思います。実際、高度先進医療として承認され、臨床試験というかたちで治療を行っている施設もあります。さらなる研究開発が進み、より安価でより効果的な治療法として確立されることを期待してやみません。

〈梶川病院（広島市西区天満町）浅海良昭医師〉